

「北朝鮮の核武装がもたらす未来②」

北朝鮮の支配者である金一族の願いはずっと一貫している。それは金一族の支配体制をアメリカに容認して貰いたいということだ。しかし、民

核兵器開発への狂進と、大量粛清を生んでいる。体は風船のように膨れ上がり、ストレスによる病的な過食に陥っていることも伺える。

アメリカとトランプは金正恩の決死の賭けの前に、ギリギリの逡巡を続けている。攻撃すればアメリカも大変な負担を背負うことになる。人命の犠牲を始めとする戦争のコストもさることながら、国際的な批判にも晒されるだろう。ロシアや中国が、この機に乗じて様々な権益拡張を図ってくる。本音では決してアメリカは北朝鮮などに手を出したくないのだ。

違えば即核戦争が勃発しかねない。アメリカは東アジアの緊張から出来るだけ遠ざかる為に、韓国に自前核武装を仕向け、アメリカの核攻撃能力は韓国から順次撤収させるだろう。東アジアの緊張の責任を韓国に押し付けようとするだろう。在韓米軍も順次撤収して、日本に機能移管していくだろう。日本は今後も平時の核武装はしないだろうが、朝鮮半島は日米中口の緩衝地帯として、今後も厳しい緊張状態が維持されるだろう。それは日中韓にとって災厄となる。鍵を握るのはアメリカだ。そしてその判断はアメリカの国益いかんだ。岐路は目前に迫っている。

主的でない独裁体制で、残忍な粛清や人権蹂躪を行い続ける支配者を、民主主義国家であるアメリカ合衆国の世論が容認出来るとは到底思えない。ひたすらに戦火を避けたい韓国政府は、この非人道的支配体制をアメリカをはじめ国連にも容認を求めているが、戦火の恐怖を前にしているとはいえず、非人道的支配に加担するとは情けなく、後述するような韓国の命運にも不明と言わざるを得ない。

アメリカを始め国際社会は核兵器さえ放棄すれば、体制解体を要求しないと言っている。しかし彼はアメリカや自国民や取り巻きに殺されない為に、強がり続けるしかないと確信しているようだ。そしてたかにかにアメリカの譲歩を目論んでいる。もはや韓国は彼に屈服したのだ。彼は自信を深めている。彼はアメリカとのチキンレースから決して降りない。降りれば彼を待つのは死だからだ。彼は最後の賭けに出ているのだ。アメリカ本土を脅かす能力を身につけ、アメリカとの核の均衡に至るまでの数ヶ月、アメリカの攻撃を回避すれば、彼の勝ちだ。

アメリカと北朝鮮が核均衡に至ってしまえば、韓国は核武装せざるを得ない。当面は核弾頭を搭載したアメリカの潜水艦の派遣で対応せざるを得ない。そして順次核装備を充実させるだろう。もちろん中国やロシアは大反発するが、韓国やアメリカに他の選択肢は無い。朝鮮半島のみならず、東アジア全体が凄まじい緊張状態に陥る。一歩間

金正恩は、前門の虎にアメリカの怒り、後門の狼に自国民の怒りを抱え、絶体絶命の崖っぷちに立たされている。その断末魔のヒステリーが、

金正恩は、前門の虎にアメリカの怒り、後門の狼に自国民の怒りを抱え、絶体絶命の崖っぷちに立たされている。その断末魔のヒステリーが、

金正恩は、前門の虎にアメリカの怒り、後門の狼に自国民の怒りを抱え、絶体絶命の崖っぷちに立たされている。その断末魔のヒステリーが、

金正恩は、前門の虎にアメリカの怒り、後門の狼に自国民の怒りを抱え、絶体絶命の崖っぷちに立たされている。その断末魔のヒステリーが、

Facebookでも活動報告を行っています。(Facebook アドレス) <https://www.facebook.com/anamiyoichi>

皆様のご意見をお聞かせください! お待ちしています。

あ な み よ う い ち

衆議院議員

穴見陽一

後援会 事務所



〒870-1133 大分市大字宮崎867-18 TEL.097-567-1319 FAX.097-567-2010

<http://www.anamin.net> E-mail:info@anamin.net